

## がんセンター病院の進捗状況

## 1 2025 年度の実績結果及び評価と 2026 年度の主な取組

2025 年度の実績結果及び評価	2026 年度の主な取組（重点事項）
<p><b>基本方針 1 県内の中核機関としての役割・機能の発揮</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県がん診療連携協議会での職種別研修会、各部会及び希少がんワーキンググループ活動の推進や、がん関連情報発信を行うとともに、三大療法別の部会を新設することにより、がん医療の均てん化及び集約化の議論を進めることができた。(1-1、1-2)</li> <li>・院外講演会やがんゲノム医療連携病院への検査説明会の開催などに取り組み、県内のがん医療の質向上に貢献した。また、造血器腫瘍の遺伝子パネル検査を開始し、がんゲノム医療拠点病院として更なる機能充実を図った。(1-3)</li> <li>・入院前スクリーニングの対象を拡大し、入院前にリスク評価することで周術期外来としての機能拡大を図った。また、外来問診表を見直し必要な情報を確実に収集し、退院支援につながる体制作りを行った。(1-4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県がん診療連携協議会の会長役として、引き続き院内がん登録のデータや診療実績等の県民に有益な情報の発信に取り組むとともに、各種研修会の企画・開催や、がん医療の均てん化及び集約化の議論を担当行政部門と共に進めることで、県内のがん医療の均てん化とレベルアップに繋げる。(1-1、1-2)</li> </ul>
<p><b>基本方針 2 高度で良質な医療の提供とエビデンスの発出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部診療科で開始した未発症がんに対するサーベイランスを継続するとともに、対象拡大に向けたワーキンググループを立ち上げ、一次・二次予防医療を他施設と連携して進めるための検討を開始するなど、サーベイランス提供体制の拡充を図った。(2-3)</li> <li>・特定機能病院として高度な医療安全のもとで質の高い医療を提供できるよう、医療安全監査委員会及び特定機能病院間のピアレビューを実施した。また、医療の質・機能について第三者機関の評価を受け、必要な対策の検討を行い、医療安全の深化に取り組んだ。(2-1)</li> <li>・治験実施件数の増加を図るため、国立がん研究センターでの研修内容を基に、医師向けの業務研修会の実施や業務分担の見直しなど治験受託業務の効率化を行った。(2-2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2026 年度から保険診療化されるがん未発症の遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者の確定診断のための遺伝学的検査や、確定診断後の乳がんや卵巣がんのサーベイランス及び予防手術の一部について、患者へ適切に提供できるよう体制整備を行うとともに、その他のがんの予防医療については、引き続き自費診療でのサーベイランス提供体制の拡充を検討し、他施設と連携した一次・二次予防医療の実施を推進する。(2-3)</li> </ul>
<p><b>基本方針 3 県内の医療や研究の中心となる人材の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立がん研究センターと研修等への合同参加を行ったほか、MD アンダーソンがんセンターへの職員派遣を行うなど、他の機関との連携強化を図った。また、人材面での交流を中心に名古屋大学との連携を推進したことにより、当センターの更なる人材強化に努めた。(3-1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外から優秀な人材を集め、国立がん研究センター、MD アンダーソンがんセンター及び名古屋大学との連携強化の取組を継続することで、研究マインドを持つ人材を育成するとともに、当センターの人材強化を図る。(3-1)</li> </ul>
<p><b>基本方針 4 取組の見える化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公式 YouTube チャンネルにおいて、ショート動画を新たに導入し視聴数の向上（3 月確認時点ショート動画総視聴数 21,028 回）に繋がった。また、一部の動画をセンターHP からも見られるようにした。(4-1)</li> <li>・患者参加型のセミナーやピアサポートを継続するとともに、公開講座については、オンデマンド方式に加え、現地開催による講座を実施した。(公開講座 5 回開催（うち 1 回現地開催）) (4-2)</li> <li>・かかりつけ医の検索システムや連携病院の解析システムを活用し、連携先医療機関へ広報誌やの情報提供チラシの配布を行った。(配布先 789 件、年 4 回) (4-3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座について、従来のオンデマンド方式と対面式を適宜組み合わせる開催し、参加者との直接的な情報共有や意見交換の機会を充実させる。対面式は関連イベントと組み合わせる開催し、参加意欲の向上や幅広い層への訴求を図り、情報発信の強化につなげる。(4-2)</li> </ul>
<p><b>基本方針 5 持続可能な安定した経営基盤の確立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器外科でのプレリハビリテーションを新たに開始するとともに、医療機器の使用前点検等による機器の安全性の確保及び、管理栄養士の専門資格の新規取得や積極的な学会発表による質向上に取り組む、リハビリテーション体制、医療機器管理体制及び栄養指導体制の強化を図った。(5-1)</li> <li>・CT 及び MRI の検査枠の増枠や検査方法の見直しを行い、自施設での検査件数の増加を図り、(1 月末時点件数 CT24,450 件（前年比+2,121 件）、MRI4,893 件（前年比+163 件）) 画像診断の機能・体制を強化できた。(5-2)</li> <li>・職員自身が DPC 病院における加算を理解し、コスト意識を高めるため、診療報酬検討委員会において DPC 係数のルール等を周知し職員のコスト意識の醸成を図った。また、医師事務作業補助者の活用により、算定漏れを減少させた。(5-6)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレリハビリテーションの更なる体制整備や、医療機器の使用前点検の運用検討を継続するとともに、栄養指導件数の増加に取り組む。(5-1)</li> <li>・画像診断の内製化を推進させるために必要な人員を確保し、体制強化に努める。また、検査対応時間の拡大や検査方法の見直しの検討を進め、検査件数の増加を図る。(5-2)</li> <li>・全診療科の査定分析及びフィードバックを行うほか、診療報酬検討委員会を通じ DPC や診療報酬のルール周知を行う。また、病院長による経営説明会の実施により職員のコスト意識を高める。さらに、医師事務作業補助者の活用により算定漏れや査定の減少を図る。(5-6)</li> </ul>

2 収益的収支見込（がんセンター病院）

（単位：億円）

		2024 決算	2025			2026 計画
			計画	決算見込	決算見込-計画	
収 益	入院収益	106.6	111.4	108.7	△2.7	111.9
	外来収益	101.6	100.3	112.3	12.0	100.4
	一般会計負担金	28.7	28.8	28.6	△0.2	28.9
	その他収益	25.0	27.7	26.9	△0.8	28.1
	収益 計	261.9	268.2	276.5	8.3	269.3
費 用	給与費	95.8	94.7	99.5	4.8	94.7
	材料費	108.8	107.7	119.3	11.6	108.0
	その他費用	57.5	59.3	58.3	△1.0	59.8
	費用 計	262.1	261.7	277.1	15.4	262.5
経常損益		△0.2	6.5	△0.6	△7.1	6.8
経常収支比率		99.9%	102.5%	99.8%	△2.7%	102.6%

<患者数、診療単価の状況>

		2024 決算	2025			2026 計画
			計画	決算見込	決算見込-計画	
入 院	1日平均患者数	360.2人	395.0人	359.2人	△35.8人	398.0人
	1人1日平均診療単価	81,063円	77,295円	82,902円	5,607円	77,055円
外 来	1日平均患者数	575.8人	606.0人	579.2人	△26.8人	636.0人
	1人1日平均診療単価	72,608円	68,389円	80,146円	11,757円	65,492円

<分析結果>

○収益の増減理由

入院 収益	患者数	・手術件数の増などにより、新入院患者数は増加しているが、医療の高度化が進んだことや、二次検査の患者が増えたことなどにより、入院期間が短くなる傾向にあり、患者数は前年度をやや下回り、計画値に届かなかった。
	診療単価	・6月に効率化係数が下がった影響で、入院料が減少した。 ・一方で、化学療法入院などにより高額医薬品の使用が増えたこと、入退院支援センターにおける入院時支援加算や入退院支援加算の算定が増えたこと、高額な手術の件数が増加したことなどにより、全体としては単価が上がり、計画値を上回った。
外来 収益	患者数	・昨年度から病院や診療所の訪問件数を増やしたことの影響が出てきたことや、二次検査の患者が増えたことにより、新来患者数が増加傾向にある。 ・一方で、遠方から通う患者を地域の病院に返すようにしていることや、再来頻度の増加が見込めない二次検査の患者が増えたことなどにより、再来患者数は伸び悩んでおり、全体としては計画値を下回った。
	診療単価	・がんゲノムプロファイリング検査や乳癌悪性度判定検査が増えたこと、高額医薬品の使用が増えたことなどにより、単価は増加傾向にあり、計画値を上回った。
その他収益		・国庫補助金（医療機関における賃上げ・物価上昇支援事業）の受け入れがあったものの、受託研究収益及び公的研究収益の減少により計画値を下回った。

○費用の増減理由

給与費	・現員数が定数を下回っているものの、給与改定に伴う増加により、計画値を上回った。
材料費	・患者数が計画値に達しておらず、また、調達時のベンチマーク分析や、医薬品の在庫の適切な管理などによりコストの抑制に努めているが、物価高による材料費の高騰、高額医薬品の使用増加に伴い、計画値を上回った。
その他費用	・患者数の計画未達による変動費の減少や、修繕費等を計画よりも抑えたことなどにより、計画値を下回った。しかしながら、物価や人件費の高騰などにより、委託費を中心に増加傾向にある。

<2026年度の収支改善の取組>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新来患者数の獲得を最優先課題として、引き続き、医療機関の訪問、Webによる予約受付及び患者自身による予約の推進に取り組む。</li> <li>・外来患者の増加に伴い、診察室の効率的な運用を検討する。</li> <li>・手術件数及び入院患者数の増加並びに入院期間及びコーディングの最適化に取り組む。</li> <li>・職員の経営意識を高め、材料の適切な在庫管理や委託業務の見直しなどにより、経費削減に取り組む。</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------